

R6年度 学長と学生との懇談会 意見交換内容

開催日時：11/20（水）、11/26（火）、12/4（水）、12/9（月） 16：30～17：30

場 所：本部棟 マルチルーム 2

参加者：19名

※ 懇談会での意見交換の内容をまとめたものは以下になりますが、他にも学長へお聞きしたいこと、ご提案等がありましたら、まずは教務課にご連絡ください。また、それぞれの回答に関する事務の窓口がわからない場合も同じく教務課にご連絡ください。

	意見・要望等	回 答
1	<p>（畜産科学課程4年） 講義によって授業スライドの送付先や課題の提出方法が違うので、講義に慣れていない1年生の頃は混乱したことがありました。</p> <p>例) 講義A：ポータルサイトで課題提出、講義B：moodleで課題提出 ポータルサイトは教務課からの大切な連絡なども届くことから、講義ごとにページが分かれているmoodleに統一することで、学生がより快適に講義を受けられるのではないかと考えます。</p>	<p>現状は、複数のシステムを利用している状況ですが、すぐに統一することは困難なため、ご指摘の意見を学内の教員と共有し授業の中で課題の提出方法などを十分に説明するようにします。</p>
2	<p>（畜産科学課程3年） 要望は、1年間にとれる単位数を増やしてほしいことです。 農業大学校で取得した単位を畜大に認定していただいた際に、畜大に入学してから1、2年の科目を受けなければならないものが4科目ありました。 このため、履修登録で46単位にすぐに達してしまい、受けたかった選択科目が登録できない制限がありました。（農経なので選択科目20単位必須なので多いのかもしれませんが…） 年間46単位制限は余裕があるという点と、大学では自己責任なので制限を緩和してもいいのではないかと考えています。</p>	<p>単位の上限を定めている理由は、多くの授業を履修することにより、学習が中途半端になってしまうことを避けるためです。個々の授業内容をより深く、じっくりと理解するため、授業外での自学・自習を充実させることを目的として46単位を上限としています。 現在の大学設置基準では、大学には履修科目の単位数の上限を定めるよう努めることが求められています。しかし、上限を定めていない大学もあり、学内においても上限をなくしてはどうかという意見もありますので、今後学内で検討していきます。</p>
3	<p>（共同獣医学課程4年） 獣医学ユニットには学生会という組織があり、各学年の学生会員を通じてユニット長をはじめとする教員の方々に意見を伝えることができます。それに対してカリキュラムや授業等について改善していただけることが助かります。これからも学生と教員側が直接連携の取れる体制を維持してほしいです。</p>	<p>共同獣医学課程では、教務委員会への学生の参加、外部有識者との懇談会への学生の参加、月例での学生との懇談会など、意見を聞く機会を設けて、教育改善への取組として反映できる仕組みを構築していますので、これを維持していきます。 また、本学で定める大学独自計画の中に、「大学の重要なステークホルダーである学生の意見を教育改善の参考とするため、学生の代表を大学教育センターの各種委員会における審議・検討の一部に参加させ、効果的に意見を聴取する仕組みを構築する。」と定めており、共同獣医学課程の学生だけではなく、畜産科学課程の学生からも意見を聞くこととし、すでに各種会議に学生が参加し貴重な意見を頂いています。</p>
4	<p>（共同獣医学課程1年） 北海道大学のカリキュラムの関係なので仕方ないが、1年時に獣医学と疎遠になっているせいで学生としてのモチベーションの低下を感じる。 学生会が体験授業を行ってくれていることは大変ありがたいと感じるが、実際に授業を受けて身につけているのは身の引き締まりようが違うなあと思っている。</p>	<p>大学の時間割上の授業だけでなく、教員の研究テーマなどを調べて、興味のある分野の教員を訪ねて相談することで学ぶこともできます。</p>

	意見・要望等	回答
5	(共同獣医学課程6年) プレクリニカル実習や総合獣医療演習など私たちの学年から始まったカリキュラムの実習で、連絡がギリギリになっていたことが多く、学生が何をするのかわからない状況が多々ありました。	ご指摘の意見を学内の教員と共有し、授業に関する連絡を余裕を持って行うようにします。
6	(畜産科学課程2年) 放送大学の案内を多めにさせていただきたいです	申込案内は、インフォメーションモール及びポータルサイトの掲示板で学期ごとに案内しています。今後は、ポータルサイトのメッセージでも案内を送付するようにします。
7	(畜産科学課程1年) 全学農畜産実習が少し物足りない(食品実習が抽選であったり、収穫祭が規模縮小したり、豚の飼育が班で一回のみであったりと)	全学農畜産実習(農畜産演習)は、入学後の1年生が受ける最初の実習であるため、できるだけ幅広い分野を学んでいただくことを想定していますが、学生の皆さんのご意見を元に令和7年度の実習に向け見直し作業を進めています。
8	(畜産科学課程1年) 連携教育が始まったばかりというのはあるかもしれないが、授業時間であったり、授業日であったりを難しいと思うが、もう少し調整いただければと感じた。特に授業開始日はそろえなくてもよいが、履修登録の開始が他大学の授業が始まってからというのは改善すべき事案に感じる。(学長にお話するような内容ではないかもしれませんが、申し訳ありません)	1回目の授業を受けることで、その授業科目をある程度把握した上で履修登録をしていただく流れになります。ご指摘の点は三大学での会議の中でも話し合われており、時間割上は自大学の学生を主に考えられており、遠隔授業を行える講義室の整備、オンデマンド教材を充実させるなどの対策を検討しています。
9	(共同獣医学課程4年) 実習で牛や馬などの産業動物を扱う機会が多いので実践的でもって勉強になります。	大学の授業へのご意見をいただき、ありがとうございます。本学のカリキュラム・ポリシーでは教育方法として、「農場から食卓まで」の幅広い視点で現場に適應できる知識と能力を養うための実践的な演習・実習を行うことと定めています。
10	(畜産科学課程3年) 期末テスト等成績に大きく影響する考査をオンラインで行う場合は、学生個人のネット環境の事情の考慮や、不正防止の徹底など、できる限り公正な実施に努めてほしい。その点で、はじめのガイダンスで評価方法などを的確に説明し、万が一の際の対応を指示して下さる先生もおり、その時は非常に安心して受講できると感じる。	ご指摘の意見を学内の教員と共有します。各授業科目のシラバスには成績評価の基準と方法を記載していますので、学生の皆さんは、シラバスを必ず確認してください。教員はその授業の成績評価の方法を事前に説明するようにします。
11	(畜産科学課程3年) カリキュラムに関して、例えば大学院進学コースなどにおいて、いつ頃申請をすればよいのかを大まかにでも入学時にもらう履修カルテに記載してほしい。それによってできる準備や行動の計画を考慮することができるため。	入学時に配布する履修要覧に、各種プログラム受講に必要な情報を掲載するとともに、ポータルサイトのメッセージでも案内をするようにします。
12	(畜産科学課程3年) 長期休暇中の集中講義の日程を、昨年度の例等を学期初めに示していただけると長期休みの予定も立てやすく良い。(既にお知らせされていれば申し訳ありません)	その年度ごとに外部講師と調整し日程を決めているため、前年度とは違う場合があります。外部講師にできるだけ早く日程を決めてもらえるよう働きかけていきます。

	意見・要望等	回答
13	<p>(畜産科学課程3年) 面倒だからとさぼっても、冠婚葬祭で休んでも同じ欠席という形になることはどうなのだろうと思う。冠婚葬祭などだけでも欠席回数に含めないという形にしてみたいのではないかとと思う。</p>	<p>現在は、忌引きによる欠席を出席として認めるような公欠制度は設けていません。学則上、成績審査(試験)を実施するために授業回数のうち7割以上出席することを定めていますが、やむを得ない理由で授業を欠席した者に対しては、教員の判断で課題やレポート等を課し、出席に代えることができるとして各授業担当教員の判断に委ねています。また、欠席する場合の手続きは、全学共通の欠席届のようなものを定めず、学生各自が、授業科目担当教員に報告するようにしています。 本学では以上のような手続きによって、本人の責めに帰すことができない理由で講義を受講できなくても不利益を被らないようにしていますが、教員からこれを理由として成績評価の対象とならないと伝えられた場合は、教務課にご連絡ください。</p>
14	<p>(畜産科学課程4年) 卒業してからでも大学で学ぶことのできる社会人向けの教育プログラムを充実させて欲しい。</p>	<p>現在、農畜産プロフェッショナル経営人材育成プログラムなど複数の社会人向けの教育プログラムを実施しています。また、馬産業に従事する人材を育成することを目的とした「馬産業人材育成プログラム」を令和7年度から開始する予定です。今後も卒業生が学び直しのできる複数のリカレント教育プログラムを開講していく予定です。</p>
15	<p>(畜産科学課程2年) ホームページ上の時間割が見つげづらいです。</p>	<p>大学ホームページ上で、「時間割」と検索すると最新の時間割が検索結果の最初に表示されるようにしました。</p>
16	<p>(畜産科学課程2年) 虫のサークルを作ろうと考えていますが、サークルで使う部屋が必要です。標本を管理する部屋又は場所を確保できないですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル棟は、老朽化が著しいことから全面的な改修を計画し、国に対して予算要求をしているところです。しかしながら、国の施設整備予算は大変厳しく、学生関係施設の整備までは行き届いていないのが現状です。 ・部屋を確保することは難しいですが、標本を管理する方法については、研究テーマで昆虫を研究している教員に相談することも一つの方法です。大学ホームページの教員紹介で研究テーマを調べることができますので、該当する教員の研究室を訪ねてみてください。
17	<p>(畜産科学課程3年) 個人的な要望になってしまうが、音更町在住のため大学と自宅が遠く、授業間の空き時間等に帰宅することが出来ないため、実習道具や実習等の外出の関係で荷物を軽くしたいときにそのほかの荷物を一時保管できるロッカー等の貸し出しを、同様の事情を持つ上級生にも行ってほしいと思った。</p>	<p>1～3年生の通学生を対象に学生用ロッカーを貸し出ししていますが、ロッカーの数も限られており、4年生以上は研究室に配属されることから貸し出しの対象とはしていません。</p>
18	<p>(畜産科学課程4年) 部活動への支援を増やしてほしい。 (畜産科学課程4年) 部活動への分配方法を人数ではなく、活動内容に応じて分配して欲しい。</p>	<p>学生後援会の予算は限られていますが、OBに支援を求めるという方法もあります。 今年は、すでに終わりましたが、来年もギビングキャンペーンを実施する予定なので、そこに参加するという方法もありますのでご検討ください。詳細はサークルリーダー研修会でご案内します。 また、学生後援会からのサークル補助費については、体育会・文化会で配分方法を決めていますので、相談してみてください。</p>
19	<p>(共同獣医学課程4年) 学生支援課で行っている物品の貸出(鍋、テント)は、とても助かっているので継続して欲しい。</p>	<p>課外活動用具の貸出は、今後も継続して行う予定です。</p>

	意見・要望等	回答
20	<p>(共同獣医学課程4年) 獣医学生でも参加しやすい留学制度がほしい。本学の単位交換留学では、獣医学生だとポリクリの単位認定が難しく、実際は休学しなければならないそうです。そのため休学せずに長期休暇を利用した短期留学や、単位交換が認められるような制度を設けてほしいです。また、大学によっては特定の指導教員の研究室の学生しか受け入れていただけないこともあり、留学に挑戦したいけどできない生徒が私も含めました。私自身が昨年summer joint programに参加しました。そのようなプログラムはとても良い経験となったためウィスコンシンのみならず他の大学とも交流があると良いと思います。</p> <p>(畜産科学課程4年) 国際的なプログラムを増やしてほしい。</p>	<p>現在、実施している学生交流協定に基づく交換留学、国際教育プログラム（海外実習、海外フィールドワーク）、サマージョイントプログラム、留学生とのイベントなどの事業を継続するとともに、参加しやすい留学制度についても検討していきます。</p> <p>また、日本人が海外に留学する場合の奨学金制度もありますので、詳しくは学生支援課留学生係にご相談ください。</p> <p>休学せずに留学するためには、留学先の大学等で取得できる単位が本学で取得する単位として認定される必要があります。それは本学だけではなく留学先大学での開講科目とも関連するので難しい場合があります。</p>
21	<p>(畜産科学課程1年) せっかく農業高校と近所にあるのですから、学生同士でもっと交流をもてるような仕組みがあっても良いのかなと感じました。特に、弊学よりも農業高校では実習のようなものを扱っている印象があるため、意見交換や共同でなにかを行えればと感じます。</p>	<p>帯広農業高校とは、連携に関する協定を締結し、大学と高校との垣根を越えた連携で、「農業に貢献できる優秀な人材の育成」を目的に、教職員の相互派遣、生徒及び学生の実習受け入れ等を行っています。</p>
22	<p>(畜産科学課程1年) ・畜産ブランドの生ハム造りに興味はないでしょうか。他大学と比べても、まだブランド商品というのが、少ないように感じますし、いかがでしょうか。</p> <p>・上記に関連するのですが、もちろん大学は研究機関ですから、研究をする教授に依存した動物の飼育や商品開発というのが多いと思います。しかしながら、畜産生自身がやりたいことをできる仕組み作りがかなえば、より活動的な大学になるのではないかと感じます。（やりたいことは大学ではなく別のところ、いわゆる課外で行う方が学生にとっては良いとは思いますが、大学で見たときにはプラスになるのではないかと感じます。）</p>	<p>・ 現在、畜産牛乳、畜産アイスクリーム、「学生の酒造りのプロジェクト」による「畜産酒」などがありますが、本学の教育研究成果や資源を活用して商品化できるものがあれば都度検討していきます。</p> <p>・ 例えば、とかち財団が運営しているLANDのLANDサークル (https://land.or.jp/tp_detail.php?id=600) に参加したり、十勝発学生ビジネスイベント「TOMOSHIBI〜灯し火〜」 (https://www.obihiro.ac.jp/facility/crcenter/event/60861) などに参加することで、自分のやりたいことを発見するきっかけになるかもしれません。</p>
23	<p>(畜産科学課程1年) ・夜間でも電話ができる空間が欲しい（特に寮生向け） ・寮の壁が薄くて、本人のプライバシーの問題もあるが、周りが迷惑することもあります。</p>	<p>電話ができる空間について、良いアイデアがあれば、あらためてご提案下さい。また、壁が薄く、隣の音が聞こえてしまうことについては、夜間など隣近所に迷惑をかけないよう配慮して生活して下さい。</p>
24	<p>(畜産科学課程3年) 食品ユニットのⅢ号館1階の虫の発生が多く、100番講義室などでの講義に集中しにくいです。防虫剤の常備や防虫対策など可能なものがあればお願いしたく存じます。（秋から冬にかけてカメムシが発生する。）</p>	<p>施設管理室で状況を調査し、害虫駆除剤の散布などの対応をします。</p> <p>今年度より駆除スプレーを常備し必要に応じて配布しております。また、今後カメムシが建物に進入を始める秋頃を目処に薬剤散布を実施する予定です。</p>

	意見・要望等	回答
25	<p>(共同獣医学課程6年) 夏季は冷房がないと耐えられないくらい研究室が暑いので冷房設備を設置してほしいです。講義室等の冷房が集中管理で28℃設定になるのですが、この設定温度ですと授業中などでは暑すぎて集中できません。</p> <p>(共同獣医学課程5年) 学生ルームに冷房設備がほしい。</p> <p>(畜産科学課程4年) ・夜間が寒いので、暖房を入れる時間を長めにしたい。 ・教員も研究室にエアコンをつけて欲しいと言っています。</p>	<p>学生室、教員室へのエアコン設置を計画的に進めることとしており、国等に対し予算要求しています。予算が確保でき次第設置を進める予定です。 学内の実験用途以外の居室は全て28度設定としております。</p>
26	<p>(共同獣医学課程6年) 電子顕微鏡を使用する時など、1号館1階南から西に行く際に毎回2階を通らないといけないのは不便です。</p>	<p>ご不便お掛けしております。現在のI号館西側での研究内容から、開放は難しい状況です。</p>
27	<p>(畜産科学課程4年) ラグビー場と家畜の病院があるところの間にある場所を舗装してほしい。雪解けのシーズンは非常に水深が深く、通行が困難。</p> 	<p>構内の道路整備については計画的に整備することとしており、国等に予算要求しています。ご要望のありました道路については予算確保されたため令和7年度に整備する予定です。</p>
28	<p>(畜産科学課程3年) 講義室内に燃えるゴミのゴミ箱を設置してほしい。講義中に板書して出る消しゴムのカスなどをすくって捨てたい。</p> <p>(畜産科学課程4年) 建物の清掃が行き届いていない箇所があることが気になる。</p>	<p>講義棟の清掃管理上、ゴミ箱は各教室ごとではなく、各フロアに設置しています。講義中に発生した消しゴムのカスなどのゴミは、各フロアに設置されたゴミ箱を利用願います。</p>
29	<p>(畜産科学課程3年) 私を含め、講義のレジュメを見るためやメモを取るためにパソコンやタブレットを利用している生徒が多いため、全ての教室にコンセントを設置してほしい。</p> <p>(畜産科学課程2年) 図書館のコンセントの位置が低く使い勝手がよくない。</p>	<p>可動機の講義室にコンセント設置は難しく、可能な範囲で対応しています。 図書館のコンセントについてはOAタップ等利用願います。</p>
30	<p>(畜産科学課程3年) トイレのハンドドライヤーが使えない場所がいくつかあるため、使えるようにしてほしい。</p>	<p>菌等飛散防止のため使用を停止しており、今後順次撤去する予定です。 ハンカチ等利用願います。</p>
31	<p>(畜産科学課程2年) 夜、かしわプラザで勉強する時に、照明が暗く途中で切れてしまいます。</p>	<p>節電のため、照明は一定の時間で切れるように設定しています。</p>

	意見・要望等	回答
32	(共同獣医学課程2年) 学校で休日や17:00以降自習する際に軽食を買うことのできる自動販売機等を設置してほしい。	今後の自動販売機設置の参考といたします。
33	(共同獣医学課程2年) 実験動物慰霊式を3講目の直前や授業中ではなく学生が参加できる時間帯に行ってほしい。	実験動物慰霊式については、学生・教職員が参加しやすいよう、これまでも日程を調整しながら開催してきましたが、比較的参加人数が多かったのが7月下旬の金曜日の午後だったことから、現在は同様の日程で定期的に開催しています。 今後の開催時間については、慰霊式という式典の性質や準備の時間等も踏まえ、さらに検討していきたいと思えます。
34	(畜産科学課程3年) ネット環境が悪い講義室があり、(例えば2~4番講義室、102番講義室後方など)実習・授業等で使用する際に困る場合があるため、改善してほしい。また、Wi-Fiに限らず、モバイルデータも圏外になるときがあり、非常に困るときがある(特に2~4番講義室)。 (畜産科学課程3年) 3番(23、33)と4番(34)の講義室の通信が悪くて、講義資料を読み込みにくいことが多いので、もう少し改善していただきたい。 (共同獣医学課程2年) 各教室のWi-Fiが弱い。 (畜産科学課程4年) Wi-Fiのつながりに差がある。	対象教室の一部(授業がない部屋)を確認しましたが、特にネットワークの遅延は確認出来ませんでした。ただ、何らかの要因でつながりにくい状況になっている可能性がありますので、継続調査し、出来るだけ改善できるよう対応させていただきます。 また、Wi-Fiのアクセスポイントにアクセスが集中することで通信が不安定になることがあります。多くの教員は早めに講義資料をポータルサイトやMoodleにアップロードしているはずですが、アクセスが集中する講義直前や講義中ではなく、事前に講義資料をダウンロードして講義に参加することで状況が改善することも考えられます。
35	(共同獣医学課程5年) 学生が使えるコピー機を、一号館以外にも設置してほしい。	大学が契約しているコピー機は、教職員が業務に利用することを目的に設置しているもののみで、学生の利用を目的として設置しているものではありません。また、大学生協が生協前に設置しているコピー機は学生の利用を想定したのですが、利用枚数が多いテスト時期でも赤字の状態です。経営の観点から赤字を増やすことになるコピー機をさらに設置することは難しいことをご理解ください。

	意見・要望等	回答
36	<p>(畜産科学課程4年)</p> <p>私はこの帯広畜産大学で約4年間過ごしてきて、本当に様々な経験をすることが出来ました。例えば、豚のと畜を見ることがや乗馬、搾乳体験などです。また、アルバイトで農家さんのところへ行き、その作業の大変さやお話を伺うなど多くの経験を積みました。これらの経験はどこでもできるような経験ではなく、この帯広畜産大学が十勝という広い土地に面しており、酪農や農業が盛んな土地であるからこそだと思います。そんな帯広畜産大学に入学し、無事卒業する見込みであることを誇りに思います。特に意見や要望もないので、帯広畜産大学に入学して変わったことや在学中に気づいた魅力についてここに記させていただきます。</p> <p>まず、私が貴学に入学したいと思ったのはもともと牧場で働くことが夢であったからです。牧場と言っても私がこれまで見てきたものは観光牧場であり、酪農を目的とした牧場を見るのは貴学に入学してからのことでした。そのため、最初に驚いたのが牛の大きさの違いでした。やはり搾乳をメインとしている、家畜としての牛は非常に大きく、これまで見てきた牛の2～3倍に感じました。また実際の搾乳工程は機械を用いて効率よく、スピーディーに行う必要があることを学び、その苦労について学びました。</p> <p>一方、それと同時に帯広に住んで様々な飲食店やスーパーでの買い物をして、北海道の食の美味しさ、魅力に気づきました。そこで私の夢は大きく変わり、もっと食について学びたいと思い食品科学ユニットに所属しております。特に私はこれまでお米が好きだったのでパンや麺などの小麦製品はあまり口にすることがありませんでした。しかしながら、十勝には美味しいパン屋さんがそこら中に広がっていて、パンへの興味が深まりました。こうして今はパンの研究をしております。</p> <p>このように、貴学に入学してから実践的な経験や多くの人々との交流を重ね、私の夢や考えは大きく変化しました。こういった経験を基にやりたいことや興味の幅が広がり、より多くのことに挑戦する機会をいただきました。偏にこの帯広畜産大学に入学したことで起こった変化だと思い、非常に感謝しております。</p>	<p>帯広畜産大学のミッションは、「日本の食料基地」として食料の生産から消費まで一貫した環境が揃う北海道十勝地域において、生命、食料、環境をテーマに「農学」「畜産科学」「獣医学」に関する教育研究を推進し、知の創造と実践によって実学の学風を発展させ「食を支え、くらしを守る」人材の育成を通じて地域および国際社会に貢献することです。</p> <p>学生の皆さんが、本学で学んだ安心・安全な「食」を支える農学・畜産科学・獣医学を出発点に、地球規模課題の解決に立ち向かう人材として羽ばたいていかれることを応援しています。</p>